

こらぼ大森イベント掲示板

だれでもフェスティバル

NPO 法人大森コラボレーション
障がい児・者実行委員会発足 10 周年記念

日 程：12/5 (土)
場 所：こらぼ大森 (体育館・多目的室)
参加費：無 料

子供から大人、障がい者、
みんな一緒に遊ぼう、学ぼう！

内 容：
【体育館】
13:00 オープニング・福祉エアロビクス発表
13:15 対戦型ゲーム
(大型スクリーンで大戦できる！)
14:15 音楽 (みんなで歌って踊ろう♪)

【多目的室】 同時開催！
※ 13:00 に 2 階体育館へお集まり下さい
13:30 障害学習会「障害平等研修」
↳ ・参加型ワークショップ
15:30 ・要予約 (先着 16 名)

※ 障害学習会は申込みが必要です。
メールか FAX で下記内容をお知らせください。
・お名前 ・住所 ・連絡先
申込み・問合せ：
だれでもフェスティバル事務局
Eメール: miyahara7pitstation@yahoo.co.jp
FAX: 03-5762-7536
電 話: 070-6554-9343 (担当者: 宮原)

主 催: NPO 法人大森コラボレーション障がい児・者実行委員会

そうだ！カフェを作ろう

- みんなが心地よい居場所作り講座 -

日 程: 11/6 (金)、16 (月)、30 (月)
時間帯: 10:00 ~ 12:00
場 所: こらぼ大森 2F 情報交流室 II
参加費: 2000 円 / 3 回分 (飲食費実費)
定 員: 20 名 (※抽選)
内 容: 頼もしい仲間作りのコツ
心地よい空間作りのコツ
スムーズな関係作りのコツ を学びます。
講 師: 鵜飼修氏 (滋賀県立大学准教授)
種村由美子氏 (ティール・グリーン in シード・ヴィレッジ 店主)
岩瀬昌子 (社会保険労務士)
主 催: NPO 法人大森まちづくりカフェ
※申込みが必要です。こらぼ大森情報交流室 II にメール送信。
office@ota-organic-farm.com
①メール件名「みんなが心地よい居場所作り講座」
②お名前 (ふりがな) ③ご住所 (〒)
④電話番号 (当日含む日中連絡可能) ⑤メールアドレス

好評につき第 10 回！こらぼ大森健康講座

- 誰でも、いつからでも参加できますよ！ -

日 時: 12/17 (木) 14:00 ~ 15:30
対 象: おおむね 60 歳以上の方
場 所: こらぼ大森 多目的室
内 容: 健康体操とおはなしサロン※無料、申込み不要
主 催: NPO 法人大森コラボレーション 共 催: さわやかサポート大森・平和島

こらぼ大森でボランティア募集中！！

ただ今、ボランティアを募集しています。

- ・情報誌の袋詰めや会員さんへの手配り
- ・花壇のお花のお手入れ
- ・芝生の育成作業

その他ちょっとしたお手伝いいただける方が
いらっしゃいましたら、こらぼ大森 (情報交
流室 I) までご連絡下さい。
左記の発行元と同じ連絡先です。

発 行: こらぼ大森ニュース編集委員会

TEL/FAX: 03-5753-6560

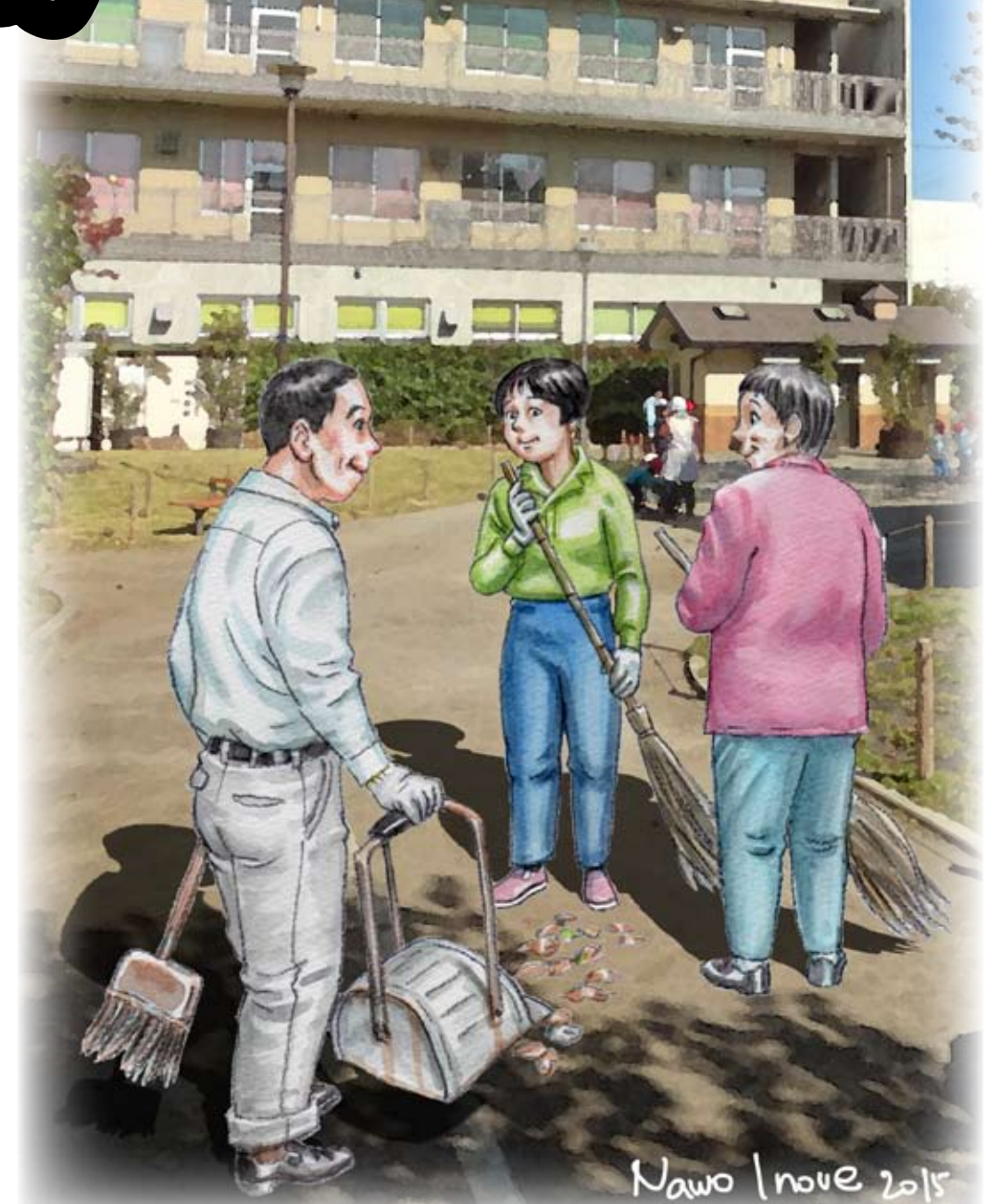
E-mail: cbc10286@nifty.com

URL: http://collabo-ohmori.com/

住 所: 大田区大森西 2-16-2 大田区民活動支援施設大森【こらぼ大森】

こらぼ大森 ニュース 第 11 号

- 大田福祉作業所の公園清掃
- LET'S こらぼ グラウンド利用団体と懇談
- こらぼ大森障がい児・者実行委員会発足 10 周年に向けて
- 本「社会起業家スタートブック」
- 掲示板「だれでもフェスティバル」「大掃除・焼き芋」など



大田福祉作業所の公園清掃 - 子どもたちの遊び場になっている諏訪公園もお掃除していますよ！ -

大田福祉作業所は、障害者の働く場所として誕生して 50 年。大田区の直営になってからは、社会福祉法人同愛会が大田区から委託を受けて運営しています。半世紀を経た歴史のあるこの福祉作業所には、学校を卒業したばかりの若い人から、勤続 30 年以上の人や、他の会社を退職してきた人など、さまざまな年齢や経歴の人がいます。勤続が長い人の中には、一人暮らしをしている人も少なくないそうです。

現在は、封入発送などの仕事が多く、中でも仕事としての取り組みがしやすく、また安定した収益につながる、区から受注する公園の清掃は、大切な仕事です。現在、諏訪公園、都住公園、三和公園、大森西児童公園の 4 つの公園の清掃を仕事として請け負っています。

諏訪公園は、近所の保育園の子どもたちの遊び場になっています。また、都住公園は都営住宅の中にあるので、住民の方の憩いの場になっています。そうした、ちょっとした出会いのある場所での仕事って、少し張り合いがあって、いいんじゃないのかな、なんて思ったりします。

LET'S
こらぼ



グラウンド利用団体と懇談

スポーツの秋を迎えて、こらぼ大森の天然芝生のグラウンドでは今、毎日のように子どもたちの元気な声が響きます。そこで、日頃からこらぼ大森のグラウンドをご利用くださる団体の皆さんにお集まりいただき、天然芝生を育成しながらもっとグラウンドを利用しやすくしてゆくために懇談会を行いました。芝生の育成に日ごろからご協力くださっているボランティアの皆さんも参加してくださいました。

・こらぼの芝生の育成・管理にご指導下さっている「株式会社オフィスショウ」黒柳力氏からは「こらぼ大森のグラウンドは、利用を制限する芝生養生期間を設けずに、できるだけ通年で利用できるようにと進めています。夏場は暑さに適応性のあるティフトン芝がよく生育し、10月ごろには寒さに強い冬芝の種を蒔きます。秋のスポーツシーズンや11月のポレポレ祭りも緑っぱいの芝生で迎えていただけるようにしていきたいと考えています。」

.....

・「メイジャマクレ（健康スローピッチングソフトボール）」からは「天然芝は転んでもケガをしにくいしとてもいいと思います。グラウンドのネットもとても役に立っています」

.....

・こらぼ大森の「子ども交流センター」からは「子どもたちが遊んで寝っ転がれるのがいいです。お母さんたちが幼児を連れて安心して遊ばせられるのも天然芝のいいところだと思います」



芝生グラウンドでサッカー教室

・「スポーツ文化創造協議会」の新居さんからは「昨年、こらぼの芝生でクリケットとラクロス初めて開催してみて参加された方々にはとても好評でした。みんなで「顔の見える関係」を作りながら、譲り合ったりみんなで守っていく雰囲気づくりが大事だと思います。これからそうしたことを期待したいです」という今後の方向についてもご意見をいただきました。

.....

・「大森フットボールクラブ」関係者からは、芝へのダメージが集中しやすいマウンド等の状況な等から、利用団体の使い方の改善や施設からの案内について、具体的なご提案がありました。

.....

貴重なご意見ありがとうございました！
これからもこらぼの芝生を皆様と一緒に守って
いきたい所存です。

事務長 森 光男



利用者が芝生ポット苗づくりに協力



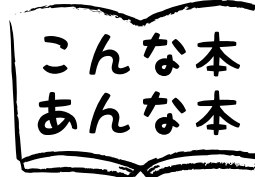
NPO 法人大森コラボレーション 障がい児・者実行委員会発足 10周年に向けて

- NPO 法人大森コラボレーション障がい児・者実行委員会 宮原 てるお さん -

平成 16 年 4 月にオープンした大田区区民活動支援施設「こらぼ大森」からの約 1 年後に、当時の NPO 法人大森コラボレーションでありました、さかいかずえさんの呼びかけで有志が集まり、町会、支援者を中心に障がい児・者実行委員会が発足されました。その経緯は、地域で障害を持つ子供や大人、その家族が近隣住民と理解を深め合い、同じ生活者として安心して暮らすことを目的に作られました。毎月 1 回の実行委員会を含め、福祉エアロビクス、だれでもコンサート、災害時要援護者の取組、障害理解の啓発学習会を年間行事として実施。実行委員には、障害者である当事者、家族、支援者、町

会役員、近隣住民の方で活動を行っています。バリアフリー化が進んできている昨今ですが、未だ障害者理解が深まらない場面も多少ありますが、私たちの活動も少しずつ広がりを見せてきており、これらの活動は現在、近隣住民を始め、大田区、東京消防庁、区内の障害者団体、大森西地域外の方たちによる幅広い協力が得られています。そして、この 10 年間の活動を通して近隣住民の方たち、こらぼ大森を利用する子供から高齢者まで、私たち障害者とも少しずつ関わりが身近な形となってきています。

NPO 法人大森コラボレーション障がい児・者実行委員会発足 10 周年記念「だれでもフェスティバル」のご案内は、裏面の掲示板 →



「社会起業家スタートブック」

こらぼ大森 2F 情報交流室 1 の図書コーナーで貸出している本をご紹介します

「誰かの力になりたい」と考えているあなた。それを仕事にする道は、きっと見つかる。この本はそんな言葉から始まる。社会の役に立つ仕事はしたいが、自分の生活も大切で、それを犠牲にはできない。そして、社会に役立つ仕事はいったん始めたら、続けなければその意義がなくなってしまう。ではどうすればよいのか？ 作者は、読者に語りかけるようにわかり易く「社会起業」について様々な角度から具体的に説明していく。実例も挙げられているので、腑に落ちる。自分が何をしたいのか、何ができるのかを考えたい方は、是非ご一読を！

また、起業したいと思っていなくても、自分と仕事について、自分と社会との関係を考える機会にもなる一冊だ。

社会起業家 スタートブック

自分と社会を活かす仕事
Starting a Social Business

百世瑛衣乎

「いいコトしたい」を仕事に変える。
就職も開業、フリーランスも、ブライダル業界も……
いま、私たちの生活には夢がない。ならば自分自身で仕事をつくらう。
社会の問題を解決して、持続可能なビジネスにする。
お金のこと、事業デザイン、組織づくりなど。
新しい「働き方」のための実践ガイド

著 者：百世瑛衣乎
出版社：亜紀書房